

清掃従業員への感染対策を 中心とした継続的教育

株式会社浄美社

高田純也、岡弘真由子、滋野好史

はじめに

近年、医療施設内感染が大きな問題となっている。

(MRSA、VRE、多剤耐性緑膿菌、ノロウイルスなど)

環境表面からの感染は稀であると考えられているが、細部にわたる環境の清潔保持は感染対策の一環として大変重要であり、近年、環境表面と医療施設内感染との関連が示唆された文献が発表されるなど、環境管理の重要性が再確認されようとしている。

医療施設内感染対策を行う上で環境管理を担当する清掃スタッフに対する感染対策教育は必要不可欠である。

独自に行う年数回の教育研修では知識の定着などに関して必ずしも十分ではない。

< 目的 >

教育研修の頻度を増やし知識の定着を図る。

ICN(広島葉子:武蔵野赤十字病院)と連携し、

現場に則した教育を実施する。

安全・安心な
サービス提供

方法

対象: 当社清掃業務受託病院(610床)の清掃スタッフ

教育: 毎月1回(計12回): H17年4月~H18年3月

当社教育担当者または感染管理認定看護師が、主に講義形式で清掃分野における感染対策を中心とした教育を実施する。

試験: 教育前(H17年4月)及び教育後(H18年3月)に、清掃方法・手洗い・廃棄物処理等に関連する同一のテストを実施する。

評価: テスト結果を比較検討し継続的教育の効果を判定する。

教育の継続効果を評価するため、1年間継続受講した17名を対象に評価した。

正答率が90%以上であれば知識の定着が見られたとする。

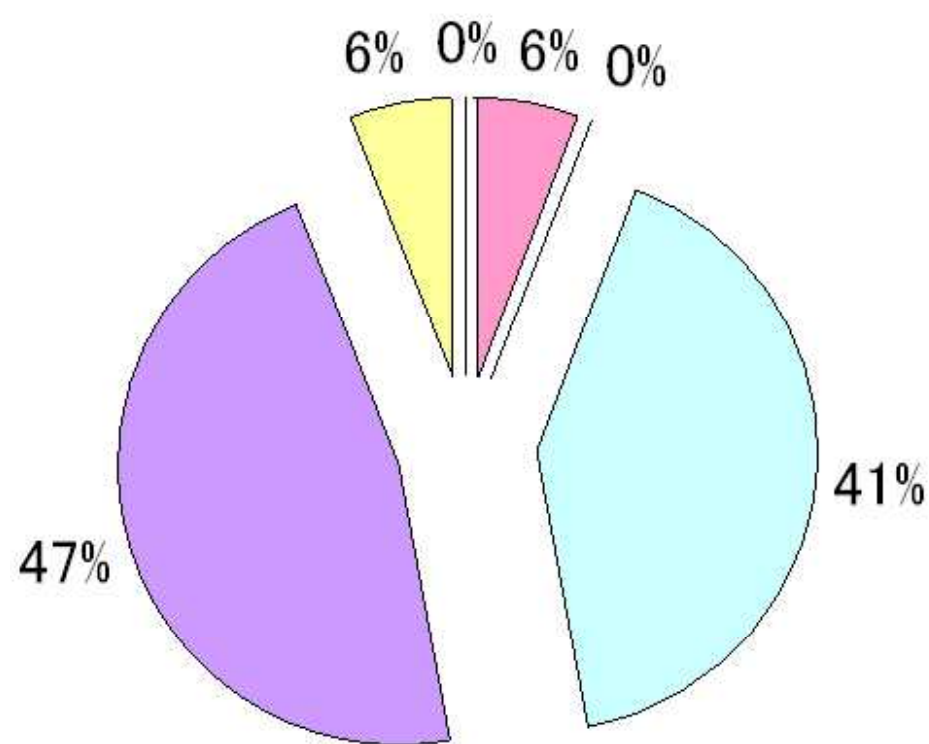
対象者の分類 (教育開始時点:H17.4.1)

< 男女比 >

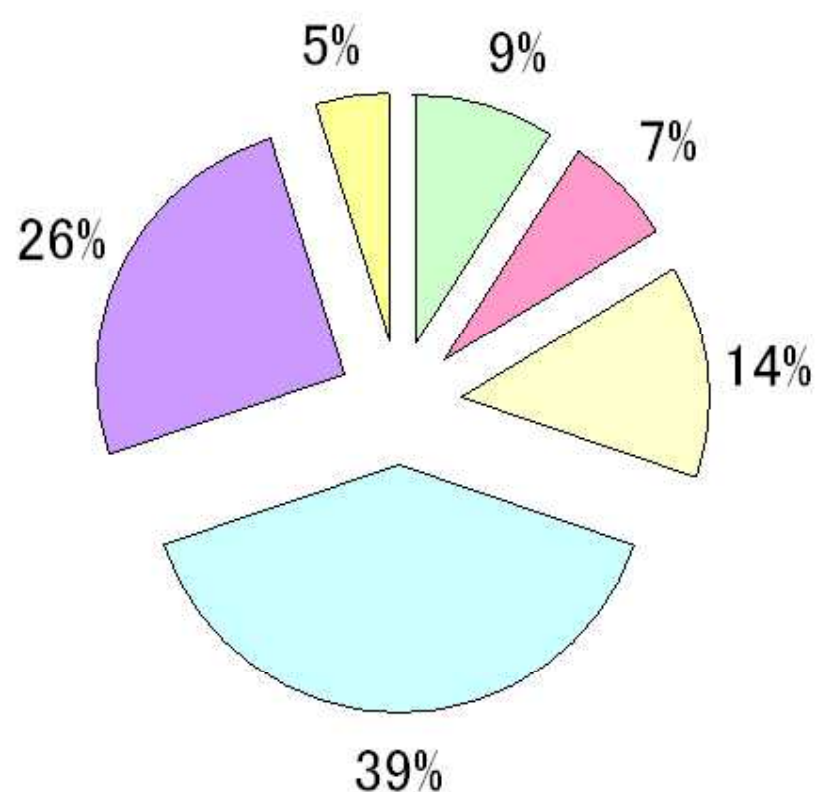
	継続受講者 (n=17)	(参考) 教育開始時点全スタッフ
女性	65%	60%
男性	35%	40%

< 年齢構成 >

継続受講者 (n=17)



教育開始時点全スタッフ
(参考)



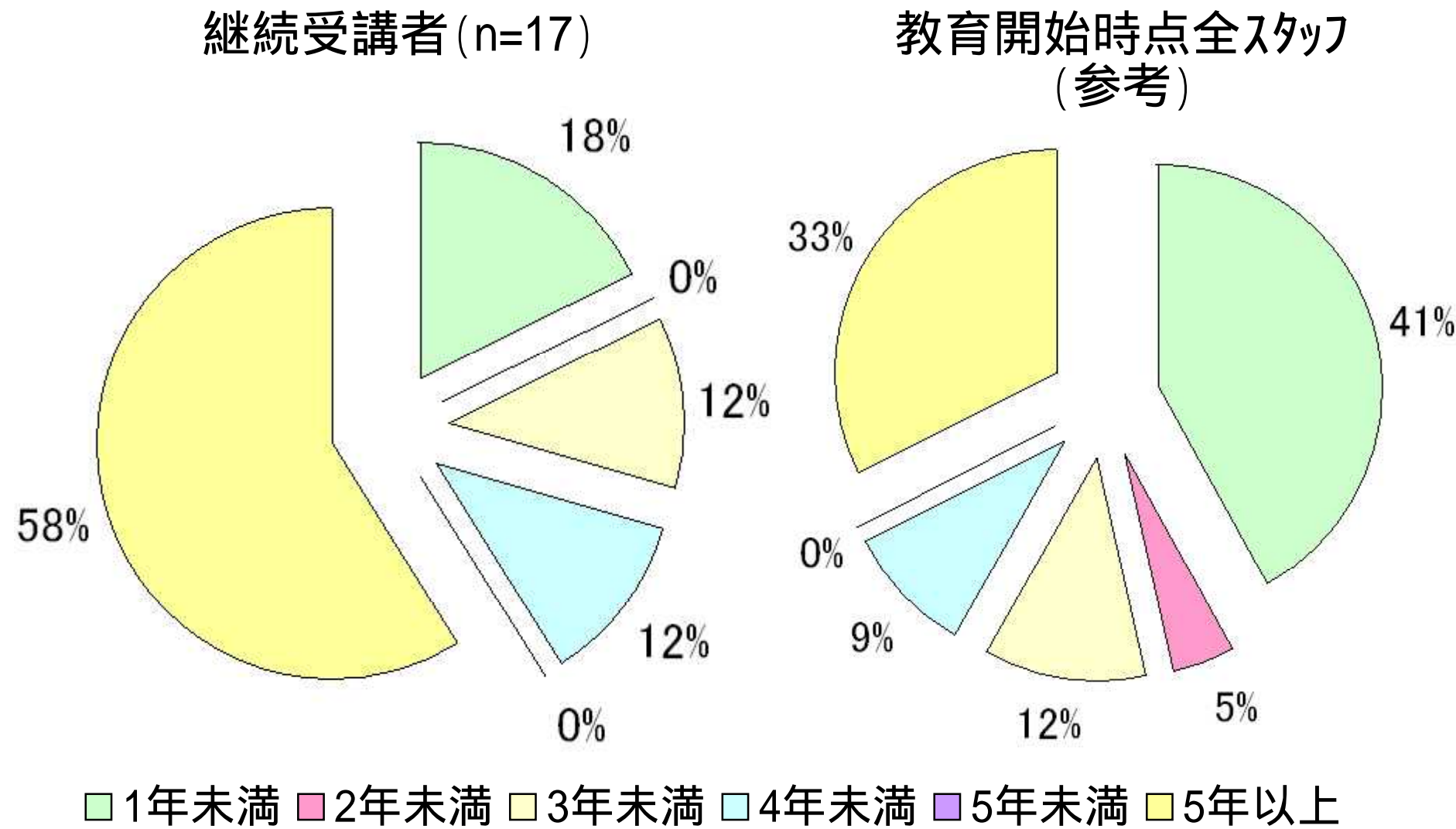
■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代

特徴

継続受講者の 94%

(16人/17人)が50代以上。
全スタッフでは、50代、60代
が全体の70%を占める。

<清掃業務経験年数>



特徴

継続受講者の60% (10人/17人)が5年以上。全スタッフでは、経験年数5年以上の経験豊富なスタッフが約30%在籍する一方で、1年未満の経験の浅いスタッフが40%近く在籍する。

<(参考)全スタッフの離職率>

	教育期間中 (H17.4.1 - H18.3.31)
継続雇用者	72%
退職者	28%

特徴

スタッフの入れ替わりが多く、年数回の教育では知識の定着が不十分であった。

教育カリキュラム

< 年間計画表 >

研修項目	内容	担当
4月	ホスピタルクリーンスタッフ研修	浄美社
	マナー・モラル 病院清掃の心得 作業上の安全教育 安全衛生 医療性廃棄物	
4月	セキュリティー研修	浄美社
	防犯教育 個人情報保護法について	
5月	手洗いについて	ICN
	手洗いの必要性 手洗いVTR アルコールによる手指消毒 蛍光塗料を用いた手洗い訓練	
5月	感染対策を考慮した清掃方法	浄美社
	守らなければならないこと 清掃方法	
6月	各所の清掃方法	浄美社
	病室 接触ポイント 血液等汚染物の処理 ディスポーザブル手袋	
7月	個人保護用具の装着方法について	浄美社
	マスク エプロン	
8月	各所の清掃方法	浄美社
	高所 トイレ・洗面	
8月	インスペクション報告	浄美社
	インスペクション報告・改善点の抽出	
9月	グループディスカッション(接遇・マナー) 事例を用いたグループ内討論および発表	浄美社
	不在と判断しロックせず入室しクレームを受けたケース 契約外の仕事を依頼されたケース 誰も見ていないからと手抜きをした同僚がいたケース	
10月	廃棄物処理について	ICN
	医療廃棄物の種類・処理方法 針刺し事故等 手洗い	
11月	ノロウイルス・インフルエンザについて	浄美社
	ノロウイルス インフルエンザ 手洗い・健康管理	
12月	洗剤について	浄美社
	洗剤の種類 希釈・使用方法	
12月	消毒剤について	浄美社
	消毒剤の種類 希釈・使用方法	
1月	廃棄物処理について	浄美社
	医療廃棄物の種類・処理方法 針刺し事故等 手洗い	
2月	セキュリティー研修	浄美社
	防犯教育 個人情報保護法(廃棄物処理) 個人情報保護法(接遇・マナー)	
3月	してはいけないこと・禁止事項	浄美社
	清掃方法 接遇・マナー 廃棄物処理	

教育スタッフによる研修



教育内容(例)

標準予防策

すべての眼で確認できる湿性の血液、体液、排泄物等は感染の可能性があるものとして取り扱う。

なぜ、すべてを感染性として考えるの？
検査をしても(潜伏期間であれば)判定できない場合もありますし、こうした検査結果だけで問題があるた感染の危険が

ホコリ・汚れがない、誰もが目で見てきれいな環境になっていますか？


ホコリや汚れがある環境は、微生物のすみやすい環境であります。
そのためホコリや汚れを取り除く必要があります。

清掃やゴミ回収・運搬の時等に、ホコリが舞い上がらないように注意しなければなりません。

ICN による研修



感染性廃棄物には
バイオハザードマークの印があります。



黄色のバイオハザードマーク
鋭利なもの・抗ガン剤
針・アンブルピンなど

注意点 1 手袋の着用

廃棄物は病原性の微生物を含むものとして捉え、その取り扱いの際には必ず手袋を着用する。
廃棄物などに触れた手袋でむやみに環境に触れない(ドアノブ・机・スイッチ)。

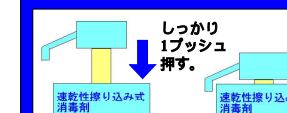
グループディスカッションによる研修



擦式消毒法

速乾性擦り込み式手指消毒をする方法です。手に目で確認できる汚れがない場合にこの方法で消毒します。

適量(約3ml)を手にとり、消毒剤が乾くまで十分に擦り込みます。



しっかり下までおさないと適量ではありません。

試験

清掃方法、手洗い、廃棄物処理に区分し知識の定着度を測定した。

浄美社ホスピタルクリーンスタッフ 研修達成度確認テスト


清掃方法として正しいものには○、間違っているものには×をつけてください。

- ①清掃は、清潔なところから汚いところへ移動しながら行う ()
- ②床面に少量の血液が落ちていたので、モップで清掃しながら拭いた ()
- ③清掃をする際、高所から開始し、最後に床面を清掃した ()
- ④血液が少量付いていたが、手袋を付けずに清掃した ()
- ⑤清掃中、手袋をつけたまま移動し、手袋をした手でドアノブを触った ()
- ⑥病室を清掃する際、青色のモップがなかったので他の色のモップを使用した ()

手洗いについて正しいものには○、間違っているものには×をつけてください。

- ⑦手に汚れが付いていたので、速乾性手指消毒剤を使用して消毒した ()
- ⑧手袋を着用し清掃していたので、清掃後は手を洗わなかった ()
- ⑨手を洗った後に手を乾かさずに作業した ()
- ⑩手を洗わずに手袋を付けて清掃し、終了後手袋をはずし手を洗った ()

廃棄物の取り扱いについて正しいものには○、間違っているものには×をつけてください。

- ⑪廃棄物の種類によっては手袋を着用しなくて良い場合がある ()
- ⑫廃棄物を運搬する際に梱包しているものは、必ず蓋がきちっと閉まっているか確認すること ()
- ⑬黄色のバイオハザードマークは、 ()
針やメスなどの鋭利なものが入った感染性廃棄物を示している
- ⑭廃棄物を取り扱った手袋をしたまま、ドアノブや机やスイッチに触って良い ()
- ⑮ゴミを手や足で押し込んだ ()
- ⑯手袋を着用して廃棄物を取り扱った場合でも、作業後に手を洗わなくてはならない ()
- ⑰一般廃棄物を取り扱う際は手袋を着用しなくてもかまわない ()
- ⑱針刺し事故が発生後、まだ作業あったので続けて、作業終了後に責任者に報告し、指示を受けた ()

結果

区分	設問		正答率(n=17)		
	No.	分類	教育前	教育後	
清掃方法		ゾーニング 一方向清掃	88%	100%	n.s.
		血液処理	76%	94%	*
		ゾーニング 一方向清掃	88%	100%	n.s.
		血液処理 標準予防策	82%	100%	*
		接触感染 コンタクトポイント	88%	100%	n.s.
		道具カラーコード	88%	94%	n.s.
	手洗い		手指消毒	18%	47%
		手洗い 安全衛生	59%	100%	*
		手洗い 安全衛生	100%	94%	n.s.
		手洗い 安全衛生	41%	88%	*
廃棄物の 取り扱い		廃棄物処理 標準予防策	94%	100%	n.s.
		廃棄物処理	100%	100%	n.s.
		廃棄物処理	82%	100%	*
		接触感染 コンタクトポイント	100%	100%	n.s.
		廃棄物処理 安全衛生	65%	100%	*
		廃棄物処理 安全衛生	82%	100%	*
		廃棄物処理 標準予防策 廃棄物処理 安全衛生	94%	94%	n.s.
	廃棄物処理 安全衛生	59%	94%	*	

*: p < 0.05 n.s.: 非有意

教育前

清掃方法の設問、手洗いの設問、
、廃棄物取り扱いの設問、で正答率
が80%以下と低かった(青塗り)。

特に、設問 汚れた手での速乾性手指
消毒薬使用時の注意

《手に汚れがある場合、消毒効果が低下す
るため、まず手洗いをしなければならない》
についての理解が著しく不足していた。

教育後

全体的に正答率が上昇した。

手洗いの設問、で正答率が目標値の
90%を下回った(黄塗り)。

インスペクションシステムによるスタッフの知識・技術のチェック

インスペクションとは...

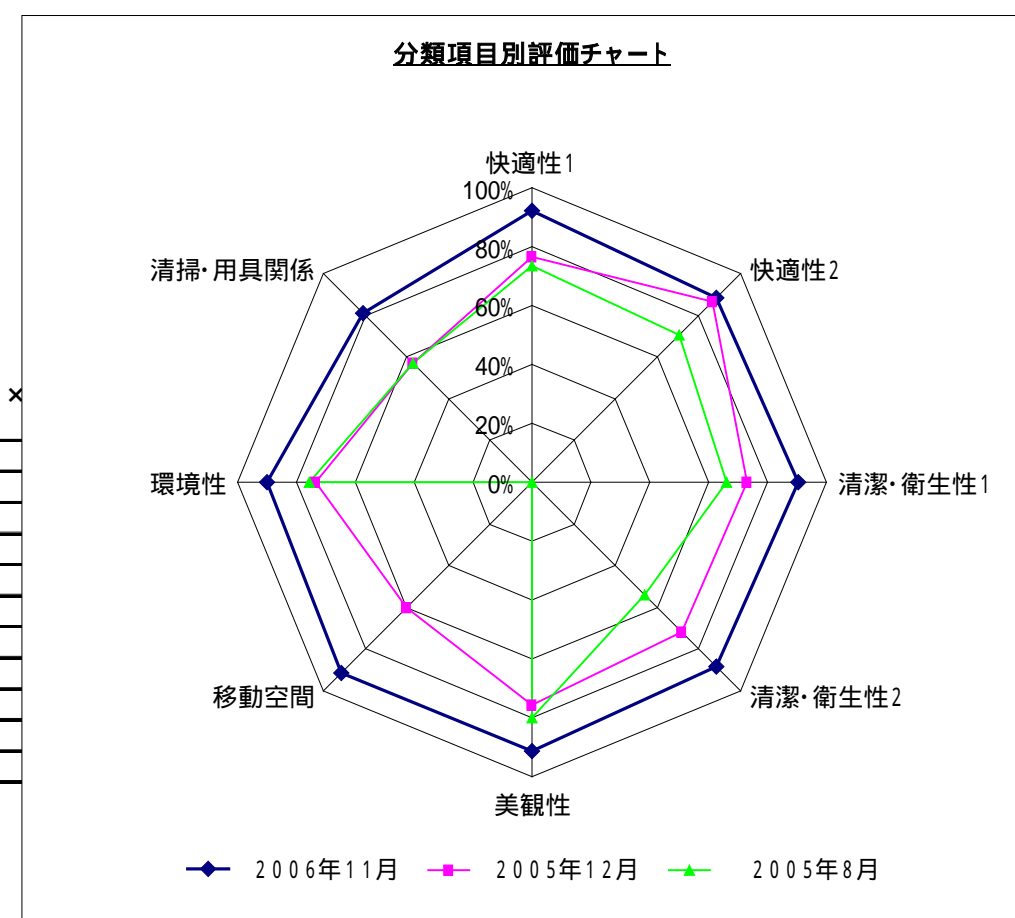
専門のインスペクターが主に「作業品質」(清掃作業の結果)を目視評価する

当社インスペクションシステムの特徴

清掃作業の結果だけでなく、ヒアリングやテスト、目視により**スタッフの知識・技術のチェック**を行い、作業工程を総合的に評価する。

病院		実施日: 年 月 × × 日		
場所 - 1	場所 - 2	評価項目	評価ポイント	評価点数 で囲む
新館	1階	待合ホール1		1 0
F1	美観性			

病院		実施日: 年 月 × × 日		
作業場所:		氏名:		
項目	チェック	備考		
清掃についての教育・訓練の有無(いつ・どこで)				
身だしなみ(服装・名札・におい等)				
入退室時のあいさつ				
.				
.				
.				
.				



< 効果 >

ヒアリング等により教育研修で学習した**知識・技術などの定着をチェックすることが可能。**
 評価されることにより**スタッフのモチベーションが上昇。**

教育前

手洗い:手指に有機物がある場合の速乾性手指消毒薬の効果低下・手洗いのタイミング

廃棄物処理:医療廃棄物処理時の注意事項・針刺し事故後の対処

の理解が著しく不足しており、交差汚染・針刺し事故などを招く恐れがあることが示唆された。

清掃手順は、実作業ではできており、言葉としての理解が不十分な場合が多く見られ、医療廃棄物処理では、全スタッフが取り扱うわけではないため感染への意識が低く正答率が低かったと考えられた。

教育後

・清掃手順、医療廃棄物処理とも最終テストで高い正答率が得られ、教育前に正解率の低かった設問、
、
でも正解率が有意に高値を示し継続的教育の効果があったと判断する。

・手洗いの重要性では、有機物がある場合は消毒薬の効果低下することに関しての理解が著しく不足しており、教育実施により正答率は有意に高値を示したが最終テストでも52%と低かった。

知識の定着を困難にさせる一要因として、当社では1年間で約3割の人材が入れ替わることがあげられ、今後いかに知識定着度を高める教育を実施するか、どのようにして離職率を低下させるかという課題も確認された。

感染対策についての知識・意識が向上

当初と比較し 1 年後には感染対策に関する知識の向上がみられ、患者やその他の人々、そして自己への感染対策に対する意識が向上する契機となった。

継続的教育の重要性

50、60 代のスタッフが約 7 割を占め、毎年約 3 割のスタッフが入れ替わるため、入社時の教育はもとより継続的に繰り返し実施することにより知識の定着を図り、安全で安心できるサービスを提供できるスタッフを育成することが重要であることが再認識された。

インスペクションとの相乗効果

ペーパーテストでの達成度評価以外に、インスペクションにより現場での実践状況や知識が評価でき、また評価されることによりスタッフのモチベーションが向上し、能動的に知識を習得しようという姿勢へと変化してきた。

ICN との連携の重要性

ICN と連携することで、病院と共通理解が図れた教育実施が可能となる。良い環境整備のためには病院と同ビジョンで活動することが重要であり、今後さらに協力し業務を進めるシステム作りが課題となる。

.....
今回の教育を実施するにあたり多大なご協力をいただきました武蔵野赤十字病院看護部 感染管理認定看護師 広島葉子様には厚く御礼申し上げます。